

学校教育目標

笑顔で

かしこく

たくましく

# 上谷の丘

～ 本当の笑顔と学びがある学校を ～

坂戸市立上谷小学校 学校だより

令和3年 5月21日 NO. 5

文責 校長 柴崎 利美

児童数182名（5月21日現在）

## 小学生でも「決断」

～ 後追い生活、後追い学習にさよなら。

自分で決めてやってみる

→ 失敗も成功も本物になる ～



先日、高学年の子供たちに紙芝居をする機会をいただきましたが、チャンスと思い、以下の内容のことをお話しました。点から線、面、そして立体と時間へ。子供たちの世界の広がり方は「次元の広がり」と似ている所があります。高学年は、まさに世界が立体化してくるその入り口に立っているとも言えます。要するに自分をきちんと「客観視」できるようになる年頃であるということです。（上谷小ランドデザインの重点目標「豊かな心」3人称の良好な関係の構築 にあたります）

**高学年の皆さんへ 5/18** 1 世の中には不条理なことがたくさんあること。

○文化や慣習、利害が違ふと一つの答えに行きつかない。

→ 正しいからそれがすべて通るわけではない。 → あなたの正しいとわたしの正しいは、必ずしも一致しない。 → 食事はナイフとフォーク（お箸）で食べるのが正しいとは言えない。

2 生きて行くためには「決断」しなければならない。

○これからは先生が答えを教えないことがある。「あなたが考えたことが答え」だと。

→ 「学び合い」（グループ討議）では、…「何が答えなの？最後は先生が教えるからそれをノートに書けばいいや。」ではないでしょう？

→ 「自分の答え」を考えたら、なぜそうなのかを考えなければならない。友達に「△△じゃないの？」と言われても、「××だから△△じゃない。私は〇〇と考えるんだ。」と正しい理由を言えるように。「なんとなく。」とか「田中さんが言ったから…。」では、時間が止まります（相手にされなくなります）。

→ 「自分なりの正しい答え」をだすために、情報（データ）（事実）を集めなければならない。それは都合がいい情報だけではだめだ。反対の情報を取り入れ、それでも、

①自分は最初の考えのままなのか。②反対の考えになったのか。

③①と②を一緒にして半分ずつにするのか。「決断」するのです。

○答えがない場合がある。 → 「動物園の動物はしあわせ？」あなたはどう考えますか？



「ゴミ処理場」は必要だが、私の家のとなりはイヤです。??…では、どこへ??

3 非認知の力がカギ

○「非認知の力」とは、「がまん強さ」とか「協調性」とか数値で測れないものを言います。コミュニケーション力とも言えます。いくら勉強ができて、たくさんのことを知

っていても、あまりにもウソをついたり、時間を守らない人はイヤでしょう？ → 知りたいことはすぐ調べられる（検索）時代なのです。

## 交通安全教室 5/10(月)

西入間署の指導員、交通指導員の方に来ていただいて、安全な横断歩道や道路の渡り方（低学年）、安全な自転車の乗り方（中高学年）を指導していただきました。「飛び出しをしないこと」「自転車の動き出しの周囲の安全確認」を実技を交え学ぶと共に、不注意な行動の「その瞬間」に命を失ってしまうこと。赤信号でも車は止まらない時があること。という厳しい現実も教えていただきました。西入間署の皆さん、交通指導員の方々、暑い中本当にありがとうございました。



## 応援合戦の練習

応援合戦の練習が始まっています。応援団の皆さんは先輩たちのカタチを引継ぎ、「おお、おれ達の時代になった。」と楽しそうに、そしてカッコよく応援練習をしています。1年生はびっくりしながらも、これもまたカッコよく揃った動きを見せてくれます。29日の運動会が楽しみです。ブロック演技も見ものです。保護者の皆さん、楽しみにしててください。



## スタディウィークについて 学年だより等でご案内の通りで

すが、小中連携の一環で行っています。お兄さんお姉さんが中学校在籍の保護者の方はわかると思います。中学校は定期テスト前に部活動がない期間がありますが、それに合わせ（お兄さんお姉さんの勉強する姿、時間を見て）、小学生も勉強する機会を作るといことです。家庭学習は学力向上の要です。ご協力と継続をお願いします。

## デジタル化への準備

埼玉県学力学習状況調査が、2024年度からタブレット端末を使つての実施へ変わります。紙と鉛筆の直書き → 「マークシート」の塗りつぶしが加わり → タブレット端末へタッチペンを使った回答へ。と。新聞では、問題を立体や動画で示し、より思考力を問える問題作成ができると紹介されてありました。これはとてもいいことであると思いますが、準備として、なにしろタブレット端末とタッチペンの扱いに慣れる必要があります。新しいマシンへの子供の親和性は大人以上に高いものがありますが、「あ、こうするんだ」を重ね、わかっていても回答の仕方が違うとか、場所が違うとかいうミス無くさねばなりません。本校でもタブレット学習が始まっていますが、様子を聞くと扱いに慣れてる子はスイスイ進むといます。扱いの部分でも子供たちが同じ土俵に立てるよう、教員もがんばってまいります。\*\*\*タブレットで上谷小HPを開いてみた学年があり、子供たちはびっくりしていたようです。「こんなのあるの?!?!」と。日常の様子がわかる写真もたくさん掲載されています（パスワードは連絡済です）ので、まだの方はぜひ親子で開いてみてください。

